

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 旭区

学 校 名 大宮小学校

学校長名 長井 久実

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大宮小学校では、第6学年 64 名

学校名 大宮小学校

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科、算数科ともに、平均正答率は大阪市平均、全国平均を上回ることができた。国語科においては、大阪市平均を7ポイント、全国平均を5.3ポイント上回っている。算数科においては、大阪市平均を5ポイント、全国平均を3.6ポイント上回った。

平均無回答率は、全国平均より国語科は3.4ポイント下回っており、算数科では1.8ポイント下回っている。記述式の問題での無回答率が全国平均に比べて特に低くなっており、問われていることに対して、自分なりの考えを書く力が育ってきていると言える。

内容ごとの平均正答率を見ても、国語科では全ての項目において全国平均を上回る結果となった。各問題でも、すべての項目において大阪市平均を上回り、全国平均でも1問を除きその他全ての項目において上回っている。算数科では、内容ごとの平均正答率は「変化と関係」の領域以外は全国平均を上回っている。問題ごとの平均正答率を見ると、「図形」「数と計算」「変化と関係」の内容で大阪市平均、全国平均を下回っている項目がある。平均正答率の高い問題と低い問題の差が大きいという課題が見られる。これからの指導に生かしていきたい。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

A話すこと・聞くこと、B書くこと、C読むこと、言語事項に関する全ての項目で、全国平均を上回ることができた。特に、「読むこと」については、全国平均を6.9ポイント上回っている。中でも、「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかをみる」問いでは、全国平均を19.6ポイントも上回っている。これまで国語科を研究教科とし、読解力を育成し、自分の考えを分かりやすくまとめたり、発表したりする指導について機会を設けて実践を続けてきた成果と考えられる。

一方で、「言語事項」については、全国平均を上回ってはいるものの、全体からみると平均正答率が低い。特に、漢字を書く問題の正答率が低いため、各学年で漢字の読み書きがしっかりと定着するように指導を工夫し取り組んでいく必要がある。

〔算数〕

A数と計算、B図形、Dデータの活用、の3つの内容において全国平均を上回った。「数と計算」の中でも、「計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」問いでは、全国平均を16.5ポイント上回っている。計算の基礎・基本を着実に身に付けてきたこと、算数科だけに限らず、他の教科においても、表現する機会を作ってきた結果だといえる。

課題としては、特に「C変化と関係」における「速さ」についての平均正答率が、全国平均を下回っている。速さの意味や、時間と距離の関係などを正しくとらえられていない児童が多かった。具体的な場面をイメージして、その理由と共に関係を式に表せる力を養い、正しく解答できるよう取り組んでいく必要がある。

質問調査より

自己肯定感にかかわるの項目や周りの環境についての捉え方にかかわる項目が、全国平均と比べて肯定的に回答している割合が高い。友だちとの関係や地域への貢献についても肯定的な回答をしている児童が多い。「自分にはよいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれる」という項目も全国平均を上回っていた。学校、学級で児童が活躍できる場を設定し、頑張りを認めたり、子どもの様子をつぶさに観察し、些細なことでも褒め励ましたりするように努めた結果であると思われる。また、学校だけに限らず、地域、保護者も児童を温かく見守っていることも要因であると考えられる。

課題は、「各教科（国語、算数、理科）が好き」と答える割合が全国平均と比べて低いという点である。教科の調査結果は前述の通り全国平均を上回っている。「学習はできるが、好きではない」というこの状態は、これからの学習意欲や学習の伸びに大きく影響してくることが考えられる。教科の中で「英語は好きですか」の項目は、肯定的な回答をする児童の割合が全国平均より高い。外国語科の時間には、歌やチャンツ、ゲームといったアクティビティやプレゼンテーションなど児童が意欲的に取り組める活動や自分の考えや気持ちを表現する活動が多いためではないかと考えられる。今後他の教科に関しても楽しく課題解決に向かう授業展開を工夫していく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

- 今年度は、算数科を研究教科に定め実践を積み重ねている。主体的に表現する児童を育てるために、「自分の考えを持ち、相手に伝わるように説明する力をつける」ことをさらに意識し、研究を深めていく。
- どの教科においても、具体的にイメージさせ、自分の考えをしっかりと持たせる機会を多く取り入れていく。また、自分が考えたことをアウトプットすることで、より学習を深めることができるので、場の設定を工夫し、考えを表現する力、他者に伝える力を高めていけるようにする。
- 指導者から発問されたことだけに答えるスタイルから自分たちで課題に焦点を当て、その課題を解決していく学習スタイルに移行していく。そのために、ICTを効果的に取り入れ、児童が様々な解決方法、表現方法を選び、個別最適な学習、協同的な学習が実現するよう努める。
- 指導力を高めるために、教員研修を実施していく。よりよい指導法について教員一人一人が積極的に研修に取り組み、児童に還元していく。
- 学習に集中して取り組めるよう児童の基本的な生活習慣の確立に向け、「早寝、早起き、朝ご飯、メディア時間」の取組を今後も継続していく。

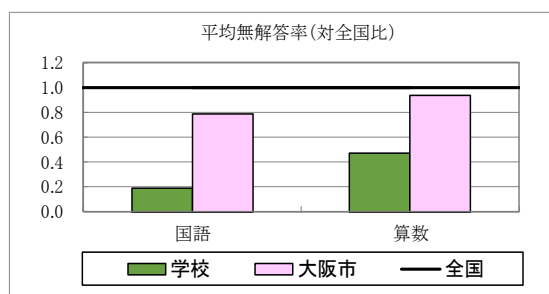
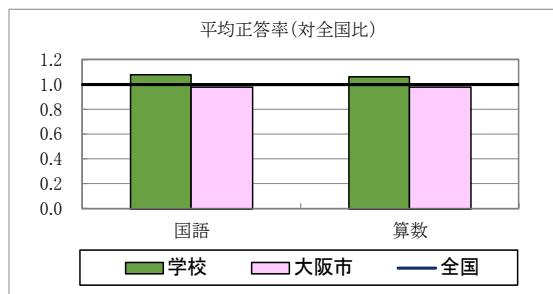
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	73	67
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	0.8	1.6
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

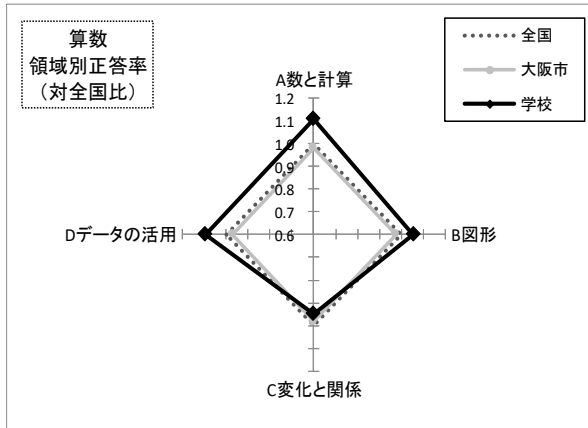
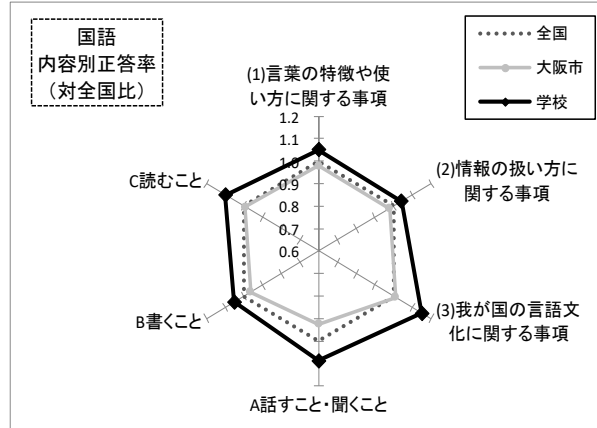
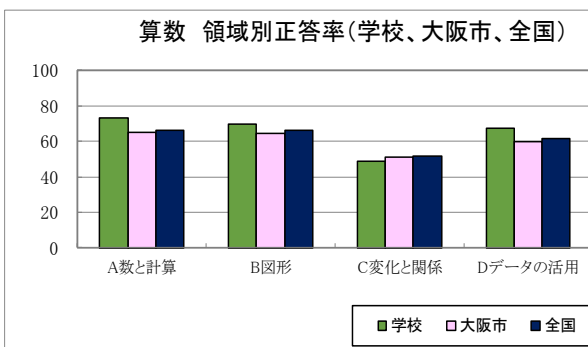
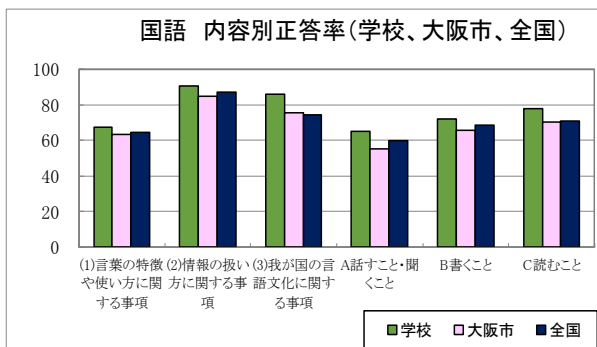


【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	67.6	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	90.6	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	85.9	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	65.1	55.3	59.8
B 書くこと	2	71.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	77.6	70.1	70.7

【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	73.2	64.8	66.0
B 図形	4	69.9	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	49.0	50.8	51.7
D データの活用	4	67.6	60.0	61.8



児童質問より

質問番号

質問事項

10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

25

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

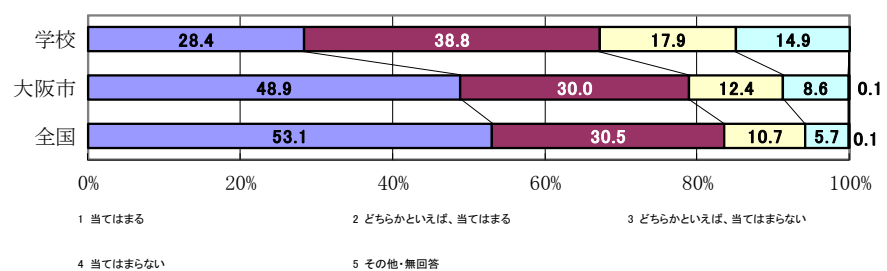
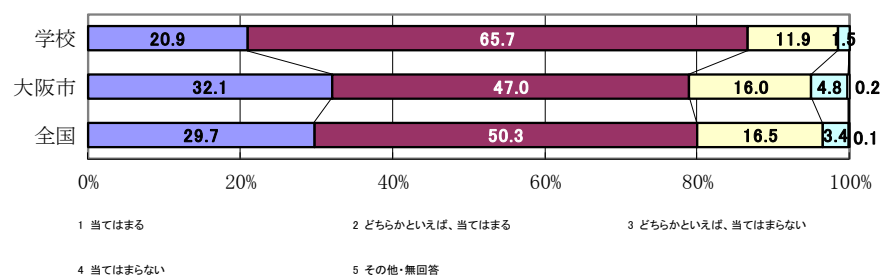
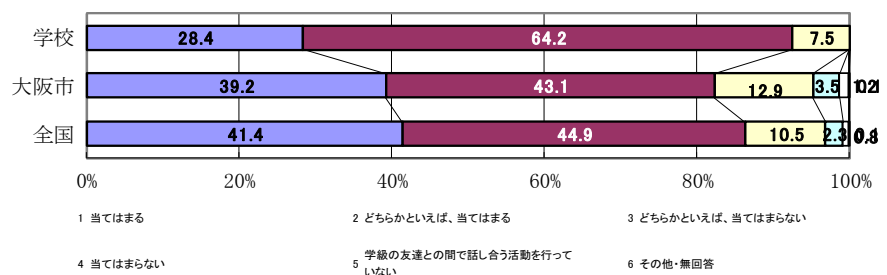
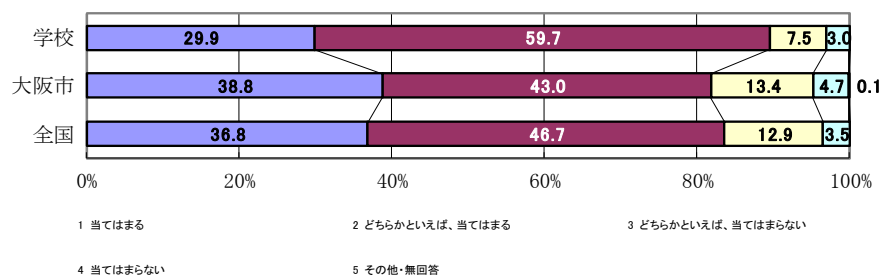
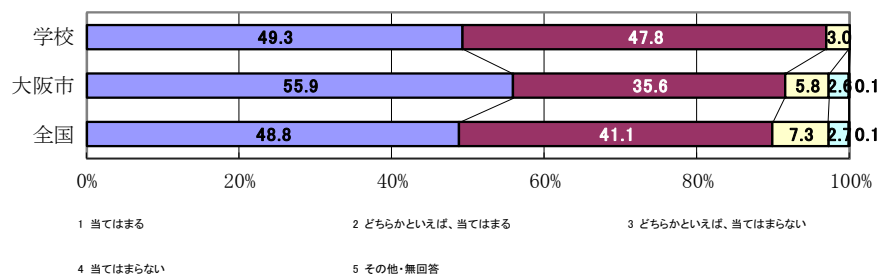
47

国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか

58

理科の勉強は好きですか

1 2 3 4 5 6 7 8



学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

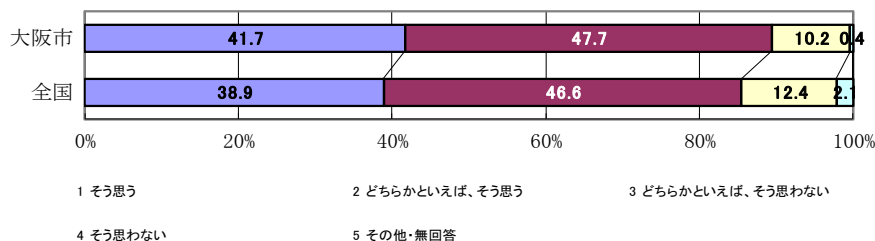
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

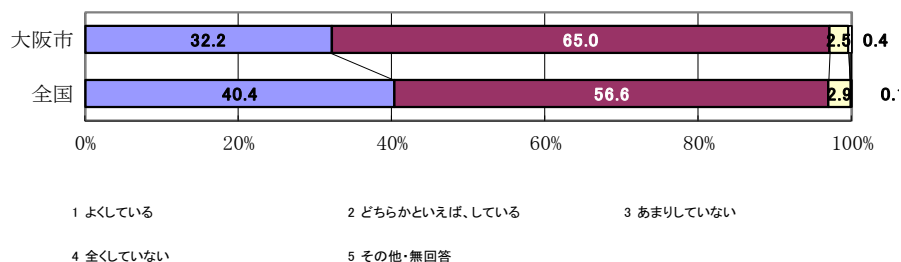
学校「そう思う」を選択



13

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどにに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

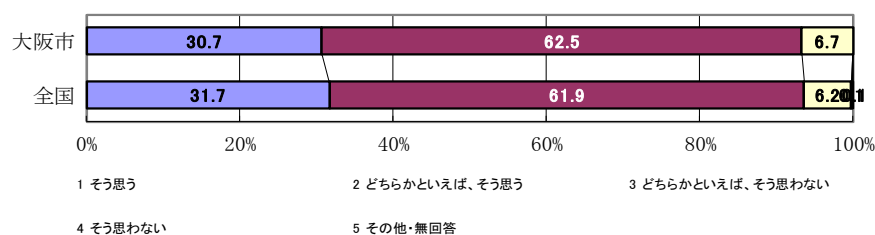
学校「よくしている」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

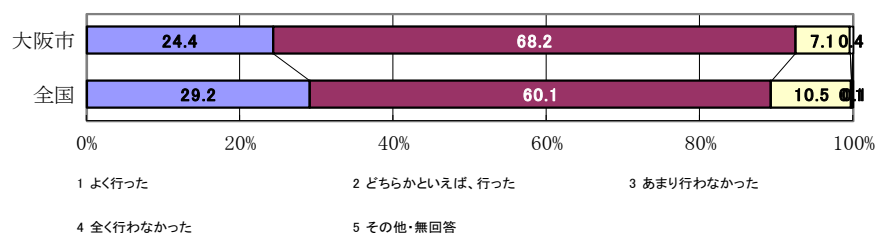
学校「そう思う」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校「よく行った」を選択



72

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

学校「よく行った」を選択

